

# 1. 人文学部

(1) 人文学部の教育目的と特徴	.....	1-2
(2) 「教育の水準」の分析	.....	1-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	.....	1-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	.....	1-11
【参考】データ分析集 指標一覧	.....	1-14

## (1) 人文学部の教育目的と特徴

1. 人文学部は、人類の精神的遺産を継承し発展させ、国内外の現代的諸問題に対する深い洞察力を育成し、もって地域社会・国際社会に貢献することを目的とする。この目的を達成するため、本学部においては、人文学の知の遺産を継承するとともに、文化的多様性と歴史性をふまえた人間と社会についての深い洞察力を身につけ、もって人間や社会にかかわる現代的課題を自ら発見し、他者との協働を通じてその課題を解決する力を身につけた人材を養成することを企図した教育を行っている。
2. 本学部の教育の特徴は、哲学、歴史、言語、文学、文化等を対象とする人文学の伝統的な分野のみならず、現代的諸課題を扱う分野も加えた多様な専門分野が、それぞれの独自性を明確に保ちつつ共存している点にある。とりわけ、考古学、文化人類学、人文地理学、朝鮮言語文化、ロシア言語文化などは地方の国立大学には設置されることが少ない専門分野であり、北陸地域においてこれらの分野を体系的に深く学べるカリキュラムを提供していることは本学部の大きな特徴である。
3. 本学部の教育はまた、個々の分野における専門深化を志向する教育と、複数分野の有機的連携による学際的教育の両立を図っている点もその特徴である。この目的を達成するため、平成30年4月から、20以上の専門分野を維持しつつ、7講座であった教員組織を専門分野の親和性に基づいて3つの大きな領域（①思想・歴史文化、②行動・社会文化、③言語文化）に改編し、個々の学生の知的関心に対応して、それぞれの領域の教員が連携して分野横断的教育を行うことができる体制としている。
4. 上記3に記載の教員組織の改編は、専門性と学際性の両立のためだけでなく、専門分野の違いを問わず、学位授与方針に沿った人文学部卒業生としての均質性を担保することにも結びついている。さらには、教員数の削減が避けられない状況にあって、従前より少ない数の教員によって教育の質を維持していくためにも、各分野が有機的に連携して補完し合う教育体制は、今後ますます有効に機能することが期待される。
5. 人文学部の教育活動はまた、学部の専門教育はもとより、教養教育の外国語科目及び人文社会系科目を中心的に担っているところにもその特徴がある。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語の外国語教育は主として人文学部教員が担っており、哲学、倫理学、歴史学、日本文学、外国文学など、いわゆる教養教育の根幹となる分野の授業科目も、その大半が人文学部教員によって開講されている。本学部のこうした役割は、今後も変わるところはない。このことはまた、本学部学生の教養教育と専門教育の円滑な接続にも結びついている。

**(2) 「教育の水準」の分析****分析項目Ⅰ 教育活動の状況****<必須記載項目 1 学位授与方針>****【基本的な記載事項】**

- ・公表された学位授与方針（別添資料 3701-i1-1～2）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

（特になし）

**<必須記載項目 2 教育課程方針>****【基本的な記載事項】**

- ・公表された教育課程方針（別添資料 3701-i1-1（再掲）、3701-i1-2（再掲））

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

（特になし）

**<必須記載項目 3 教育課程の編成、授業科目の内容>****【基本的な記載事項】**

- ・体系性が確認できる資料（別添資料 3701-i3-1～2）
- ・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 0101-i3-3）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成30年度入学生から、複数分野の授業科目を有機的に関連付けた授業科目群として以下の3つのプログラムの提供を開始した（別添資料 3701-i3-4）。これらは、2年次より選択可能で、専門分野に加えて幅広い人文学的教養に基づく汎用的能力・知見を身につけさせるための科目群、あるいは関連分野を学ぶことで専門分野をより多角的に学ぶための科目群として機能している。任意のプログラムの科目群から計10単位を修得した学生には「授業プログラム履修証明書」を交付することとしている。[3.1][3.2]

表1：授業プログラム名称及び概要

名称	概要
テキストを通じた人間理解	人文学の基礎的な資料へのアプローチを通じて、読み書きという人間の営為の本質と多様性に触れることで、人間に対する理解を深める。
地域課題探求	社会調査の基礎を学ぶことで、地域社会の課題をとらえ、

## 富山大学人文学部 教育活動の状況

	その問題を学術的に整理、分析する手続きを理解する。また、その課題の解決策について、地域社会に対して提案をおこなう基礎力を養う。
異文化理解	世界の様々な国・地域の文化について、思想、倫理、宗教、歴史、芸能、文学、言語など多様な観点から学ぶことで、理解を深める。同時に、文化の多様性を理解し、自文化を相対的に捉える力を養うことで、国際社会において文化的背景を異にする人と協働できる基礎を培う。

(別添資料 3701-i3-4\_授業プログラム履修の手引き (2018 年度) から抜粋)

- 教養教育と専門教育の接続を円滑にするため、教養教育院と連携し、1年次に向け関連分野を選択するよう勧めている。特に人文学部教員は教養教育における初修外国語科目を多く担当しており、その後の専門教育においても、初修外国語科目を担当した教員が関連する専門科目を担当するなど、専門分野の学修へのスムーズな移行に寄与している。[3.4]

(1) 人文学部の学生で、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語など、関連する文化圏について学部で専門的に学びたいと、すでに考えている方は、その言語を選択して下さい。

(教養教育院の1年次用配布資料『初修外国語、何を学ぶ?』P. 3から抜粋)

- 従来、教養教育と専門教育の橋渡しとして、また2年次以降のコース選択の情報を提供する科目として7つの入門科目群を設けていたが、卒業要件となる単位数(4単位)と比較して科目数が多く、コース選択に悩む学生がいたことから、入門科目群全体を見直し、平成30年度から「思想・歴史文化入門」「行動・社会文化入門」「言語文化入門」の3科目にまとめ開講することとした。科目の見直しについては、同年度に再編した教員組織に対応させており(7講座から3領域へと再編)、1年次への情報提供、特に各領域内に設置されるコース及び教育研究分野の情報を提供できることとなった(別添資料 3701-i3-5~7)。[3.4]

### <必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料(別添資料 3701-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料(別添資料 3701-i4-2~4)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(別添資料 3701-i4-5)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料(別添資料 3701-i4-6)

- ・指標番号5、9～10（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 2017年度に教員組織を7講座（「人間科学」「歴史文化」「社会文化」「国際文化論」「東アジア言語文化」「英米言語文化」「ヨーロッパ言語文化」）から3領域（「思想・歴史文化」「行動・社会文化」「言語文化」）に整理統合し、専門分野の近い教員がより緊密に協力して教育を行う体制とした。併せて、7つの入門科目群を3つの入門科目へ統合することにより、より多くの関連分野の教員が関与する形で入門科目を実施することが可能となった。また、各領域で複数分野の授業科目を有機的に関連付けた授業プログラムを提供することもできるようになった（別添資料3701-i4-7）。

なお、これら3領域は、人文科学研究科の3領域（「思想・歴史文化」「行動・社会文化」「言語文化」）とも概ね対応しており、学士課程（人文学部）と修士課程（人文科学研究科）の接続が学生にとってより明確になった。[4.4]

○ 考古学、人文地理学、文化人類学、社会学、日本語学等の分野において、富山県内での現地調査を行うことによって、地域の課題を知りつつ、自治体と協力し、資料の収集・分析方法、作業方法、報告書の作成等を修得することが可能な科目を展開している（別添資料3701-i4-8～19）。[4.1][4.6]

## ＜必須記載項目5 履修指導、支援＞

### 【基本的な記載事項】

- ・履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料3701-i5-1）
- ・学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料3701-i5-2）
- ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料3701-i5-3）
- ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料別添資料3701-i5-4）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ GPAにより学生が自ら学修状況および学修成果を把握できるようにするとともに、オリエンテーション等を通じてカリキュラムの体系性やCAP制及びGPAの趣旨を学生に十分に説明することにより、明確な目的意識をもった授業履修や授業時間外の学習の重要性を周知している（別添資料3701-i5-1～4（再掲）、別添資料3701-i5-5）。[5.1][5.2]

○ 1年次については、各教員が平均3名の学生の指導教員となり、前・後学期開始時に学生と面談している（別添資料3701-i5-6）。また1年次前期の必修科目である基礎ゼミナールの担当教員も、1年間を通じて指導を担当し、指導教員とゼミナ

## 富山大学人文学部 教育活動の状況

ール担当教員の2名による指導体制となっている。2～4年次については、教務委員会が学生の単位取得状況を毎年度確認している他、所属コースの教員も定期的に個々の学生の修学状況を確認し、適宜、指導を行っている（別添資料3701-i5-1（再掲））。これらにより、学士課程の4年間を通じて、教員が個々の学生の状況を注視し、学生が抱える学習上の困難の早期発見とその解消に努めている。さらに、毎年度、保証人に成績通知を行い、保証人と本学部がより密に連携して学生を指導できる体制としている（別添資料3701-i5-7）。[5.1]

- 1年次の「キャリア・デザイン」、2年次の「キャリア・デザイン演習」を開講し、2、3年次の「インターンシップ」と併せて1～3年次にわたる講義・演習・実習という体系的なキャリア教育を行っており、4年次の就職活動に向けてのみならず、卒業後の長期にわたるキャリア形成への意識向上を図っている（別添資料3701-i5-8～10）。[5.3]

### <必須記載項目6 成績評価>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料3701-i6-1～4）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料3701-i6-5）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料3701-i6-6～7）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成28年度入学生よりGPAを導入したほか、シラバスに評価基準を明記し、それに基づいて成績評価を行うことによって、成績評価の厳格化を進めている。その一環として、令和元年度から「秀(S)」の比率を10%以下とする目標を設定した（ただし、相対評価を無理に導入すると授業本来の趣旨と教育的効果が損なわれやすい受講者20名以下の授業は除外している）。その結果、令和元年度の授業に関しては、「秀(S)」は全体の10.9%となり、目標はおおむね達成できたといえる。（別添資料3701-i6-5（再掲）、別添資料3701-i6-8）[6.1]

### <必須記載項目7 卒業（修了）判定>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料3701-i6-2（再掲））
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料3701-i7-1～2）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

**<必須記載項目 8 学生の受入>****【基本的な記載事項】**

- ・学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3701-i1-1（再掲）、3701-i1-2（再掲））
- ・入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・入学定員充足率（別添資料 3701-i8-1）
- ・指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

**【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】**

- 人文学部入学者における富山県内出身者比率（数）は、平成 28 年度は 24.9%（48 名）であったが、平成 29 年度は 28.0%（51 名）、平成 30 年度は 29.9%（53 名）、平成 31 年度は 34.7%（60 名）と一貫して増えてきている。北陸新幹線開業（平成 27 年 3 月）によって受験生の流動化とストロー効果によって地域内からの受験生が減る可能性も考えられたが、本学部に関しては、むしろ県内からの進学機会としてのニーズは高まっていると考えられる。これにはさまざまな要因が考えられるが、人文学部で実施している高等学校訪問に関して平成 29 年度以降は県内高等学校への訪問に力を入れていること、探究科を含む高等学校への講師派遣を行い広大連携に努めていることも、県内における適切なマッチングに寄与していると考えられる（別添資料 3701-i8-2～4）。[8.2]

**<選択記載項目 A 教育の国際性>****【基本的な記載事項】**

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3701-i4-5（再掲））
- ・指標番号 3、5（データ分析集）

**【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】**

- 教員数が減少する中、外国語母語話者である教員を雇用し、専門科目としての朝鮮語やロシア語を含む 6 つの外国語を、日本人と母語話者の教員から学べる体制を維持している（別添資料 3701-iA-1）。[A.1]
- 東アジアを中心とする諸地域の大学と交流協定を結ぶとともに、英語圏とフランス語圏に語学研修先を持つことで、希望者の留学や語学研修を実現している。平成 28 年度から令和元年度に交流実績のある協定先は 8 校にのぼる（別添資料 3701-iA-2）。これまでも海外での学習成果を卒業要件単位として認定する制度が活用されてきたが、平成 31 年度以降入学生からは短期語学研修（延べ 30 校時以上）を「海外語学研修 I～IV」としてより体系的に認定する制度に改訂した（別添資料 3701-iA-3）。[A.1]
- 留学生向けの科目「日本語表現法」を前学期に開講し、日本語のアカデミックライティングの能力を涵養している。さらに、日本人受講者数が留学生の人数を超え

## 富山大学人文学部 教育活動の状況

ないように配慮された「日本文化論演習」を後学期に開講し、留学生と日本人学生の共同作業を通じて日本を含む各国の文化を学ぶことができる体制を構築している（別添資料 3701-iA-4）。その他の科目でも、開講されたすべての授業のうち平均 35%で留学生と日本人がともに学ぶ環境が得られている（別添資料 3701-iA-5）。  
[A. 1]

- 外国人留学生および海外に留学する学生を対象とした学部独自の奨学金制度等により、国際交流の体制を整備している（別添資料 3701-iA-6～7）。[A. 1]
- 日本語学を学ぶ学生が協定校を中心とした海外の大学を訪れ、ディスカッションなどの交流活動を行っている（別添資料 3701-iA-8）。[A. 1]
- 国際関係論コース教員の引率により、大韓民国国民大学校への訪問研修を継続的に実施しており、2016 年度、2017 年度、2019 年度は学部の「フィールドワーク実験系教育支援経費」によりこれを支援した。この訪問研修では、国民大学校における日韓学生合同授業や討論会、朝鮮半島の歴史と文化を知る各種資料館・博物館などの見学を行っている（別添資料 3701-iA-9）。[A. 1]
- 中国語教員の引率により、「富山県・中国遼寧省友好締結 35 周年記念事業～中国遼寧省との交流事業・派遣学生～」に人文学部 12 名が参加し、交流活動、中国語によるスピーチなどを行った（別添資料 3701-iA-10）。[A. 1]

### <選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

（特になし）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 人文学部教員が富山県内の高等学校の探求科学科の授業を担当し、高校生に研究の基礎的な方法論だけでなく面白さと奥深さを伝える役割を担っているほか、課題研究の指導員（テーマ設定・研究方法の助言、研究成果の講評）、専攻科看護科の非常勤講師などとして地域の高大連携に寄与している（別添資料 3701-i8-4（再掲））。[B. 1]
- 人文学部教員による地域との連携活動は「富山県民生涯学習カレッジ」「富山市民大学」をはじめとする地域の生涯学習機関での講演や作品審査、学校等でのカウンセリングなど、多岐にわたる。富山県内の自治体や団体との連携活動は 2018 年度には教育に関わるものだけで 23 件に達し、地域の人文学領域の教育の柱となっている。さらに北陸・中部地方にも連携の場が広がっている（別添資料 3701-iB-1）。  
[B. 1]



- 従来、本学部と富山県砺波市との間では、留学生を含めた学生たちによるゼミ合宿や方言調査、枝切りや清掃、HP 作成などのボランティア活動を通じて協力関係が築かれており、それに基づいて 2017 年、本学部と砺波市との間に共同研究に関する連携協定を締結した（別添資料 3701-iB-2）。砺波市では空き家対策として大学生がゼミ合宿や情報発信を行う「第 2 のふるさと発見事業」を行っており、そのコーディネーターを務める日本語学の教授のゼミを中心に年数回の活動を実施している（別添資料 3701-iB-3）。[B. 1]
- 考古学研究室による地域の遺跡等発掘（2018-2019 年）や、人文地理学研究室を中心とした街づくり、町おこしに関わる PR 活動（2019-2020 年）、日本文学研究室による地域の伝統文化に触れるゼミ合宿（2017 年）、ロシア言語文化研究室による高校生への異文化教育活動（2017 年）など、地域との連携の中でアクティブラーニングの性質をもった工夫ある教育を行っている（別添資料 3701-iB-4）。[B. 1]

#### <選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

##### 【基本的な記載事項】

（特になし）

##### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 学部独自の FD 研修会を毎年度 2 回行っており、教員の参加率は概ね 90%を超えている。近年は、学生本人のメンタルヘルス上の問題による留年や退学等が増える傾向にあるため、学内の学生相談室およびアクセシビリティ・コミュニケーション支援室の専任スタッフを講師とする研修会を定期的で開催し、何らかの困難を抱える学生への指導を適切に行うよう努めている（別添資料 3701-iC-1）。[C. 1]
- 学生の視点で授業を評価し改善につなげるため毎学期終了時に授業評価アンケートを実施しており、その実施率は平均で 98%となっている（別添資料 3701-iC-2）。[C. 1]

#### <選択記載項目 D リカレント教育の推進>

##### 【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3701-iD-1~2）
- ・指標番号 2、4（データ分析集）

##### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 多くの授業を市民に開放し、受講者を多数受け入れている。具体的には、オープン・クラスとして、2019 年度前期には 57 科目、同後期には 55 科目と多様な分野に

## 富山大学人文学部 教育活動の状況

わたる科目を設定し、それぞれ前期 46 名、後期 54 名の受講者を受け入れている。オープン・クラス受講者数は毎年度各期 40～60 名前後で推移しており、これは富山大学全体の 24～44%程にあたる（別添資料 3701-iD-3）。また、教員免許及び学芸員資格取得のための者を含む科目等履修生等も毎年度受け入れており、リカレント教育等に貢献している（別添資料 3701-iD-4）。[D. 1]

- 地域住民の人文学に対する知的関心に応えるため、人文学部独自に 2016 年度には公開講座、2017 年度からは公開研究交流会「富山循環型『人文知』研究プロジェクト公開研究交流会」（「人文知」コレギウム）を新たに開催し、教員の研究成果を発表している。後者については 2017 年度（計 6 回）、2018 年度（計 6 回）、2019 年度（計 6 回）の計 18 回実施した。学生及び学外からの聴講者数は平均 34 名、多い時で 80 名であり、合計人数に占める学生・学外者の割合は平均 61.0%で、その存在は富山市民および富山県民に定着しつつある（別添資料 3701-iD-5～7）。また、「人文知」コレギウムの発表内容は年度ごとに書籍にまとめ、『人文知のカレイドスコープ I』（2017 年度）及び『同 II』（2018 年度）、『同 III』（2019 年度）として刊行した。この取り組みは今後も継続予定である。[D. 1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## ＜必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等＞

## 【基本的な記載事項】

- ・標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3701-ii1-1）
- ・「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3701-ii1-1（再掲））
- ・指標番号 14～20（データ分析集）

## 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学士課程における標準修業年限内の卒業率は、2016年度から2019年度において平均 87.6%である。また、「標準修業年限×1.5」年内の卒業率は、2016年度から2019年度において平均 95.1%である（別添資料 3701-ii1-1（再掲）、別添資料 3701-ii1-2～3）。[1.1]
- 留年者数は、2016年度には40名であったが、減少傾向にある。特に2017年度及び2018年度は27名に改善している。本中期計画期間開始時期の前後に在籍している学生から、学部教務委員会が主導して定期的に個々の学生の修学状況を確認し、特に3年次終了時点での単位取得状況の確認と指導を強化しており、それがここに来て改善につながっている可能性がある。退学者数は、各年度10名前後で推移している（別添資料 3701-ii1-4）。[1.1]
- 学生が希望に応じて教員免許状、学芸員資格、社会調査士資格、認定心理士資格等の資格を取得できるように、カリキュラムを構成している。中学校及び高等学校教員免許取得者数は、2016年度・2017年度の17名から2018年度の19名、そして2019年度の18名へ推移している。また、学芸員資格取得者数は、2017年度に上昇している（別添資料 3701-ii1-5）。社会調査士資格申請者数は、2016～2018年度は5～9名で推移している。2019年度は所属学生数が減少したこともあり、申請者はいなかった（別添資料 3701-ii1-6）。認定心理士関連科目受講者の総数は、各年度420名を越えている（別添資料 3701-ii1-7）。[1.2]

## ＜必須記載項目 2 就職、進学＞

## 【基本的な記載事項】

- ・指標番号 21～24（データ分析集）

## 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016～2018年度の学部卒業者の就職率は、平均 87.1%である（別添資料 3701-ii2-1）。富山県内への就職者数は、2016年の61名（就職者総数の36.7%）から2017年の73名（就職者総数の42.9%）、2018年の71名（就職者総数の42.3%）へと上昇傾向にあり、人文学部の卒業認定・学位授与方針の一つである地域社会に貢献する人材の育成という使命を十分に果たしている（別添資料 3701-ii2-2）。

## 富山大学人文学部 教育成果の状況

[2.1]

- 2016～2018年度の業種別の就職率は、公務員 13.5～15.7%、卸売業・小売業 7.6～19.3%、製造業 13.7～19.4%、金融業・保険業 9.5～17.6%、情報通信業 5.9～15.5%、教育・学修支援業 4.2～8.8%で、卒業生は主に富山県とその近県において、公務員などの業種で地域社会の中核的役割を担っている（別添資料 3701-ii2-2（再掲））。[2.1]

### <選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3701-iiA-1～2）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人文学部学位授与方針に挙げた「課題解決能力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「人文学の専門的知見」「現代的課題への対応能力」については、平均して80%以上の卒業生が「十分に身についた」又は「ある程度身についた」と回答している。とりわけ、「課題解決能力」が「十分に身についた」又は「ある程度身についた」との回答率が、平成28年度の76.0%から、同29年度は97%に、同30年度は95%に上昇している。さらに「人文学の専門的知見」が「十分に身についた」又は「ある程度身についた」との回答率も、平成28年度の84.4%から、同29年度は92%に、同30年度は93%に顕著に上昇している。[A.1]
- 「外国語能力」については、外国語運用能力の修得を主たる目的のひとつとするコース（英米言語文化、ヨーロッパ言語文化）では平均して80%以上の卒業生が「十分に身についた」又は「ある程度身についた」と回答している。[A.1]
- 「国際的視点」については、世界の諸地域の文化・文学・言語・歴史等の研究を主たる目的とするコース（歴史文化、国際文化論、英米言語文化、ヨーロッパ言語文化）では平均して80%以上の卒業生が「十分に身についた」又は「ある程度身についた」と回答している。[A.1]

### <選択記載項目 B 卒業（修了）生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3701-iiB-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 今後の既卒者の意見聴取に向けて、令和元年度は一部の既卒者を対象に調査を実施した。連絡先等の個人情報適切な利用範囲で回答を依頼できる対象者に止めざるを得なかったため、回答依頼者総数は79名、回答者数は9名（回答率11.4%）であった。今回の調査においては、専門的知見、課題発見能力、課題解決能力、他者の考えを理解し共感する能力、異なる背景を持つ人々と協働する能力について、「とても役立っている」「ある程度役立っている」との回答が得られている。[B.1]

### <選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料3701-iiC-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成30年度に実施した卒業生の就職先企業へのアンケートでは、計90社から回答を得た。その結果によると、卒業生の能力については、質問した全ての項目において「やや優れている」又は「どちらとも言えない」と評価されており、卒業生の職業人・社会人として必要とされる能力について一定の評価を得ている。[C.1]

とりわけ、「責任をもって仕事に取り組む能力」(Q6)は回答平均ポイントが4.04と最も高く、「大変優れている」又は「やや優れている」と評価されている。次いで「他者と協働する能力」(Q7)も高い評価（回答平均3.91ポイント）を得ている。[C.1]

このことは、選択記載項目Bの回答において他者の考えを理解し共感する能力、異なる背景を持つ人々と協働する能力が「とても役立っている」「ある程度役立っている」と評価されていることと併せて、本学部の教育は学位授与方針に掲げる「人間や社会にかかわる課題を（中略）他者と協働して解決できる創造力」を持った人材育成に成果を上げていると言える。[C.0]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号 8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。